

## 第1回 教育力向上福岡県民会議 議事録（要旨）

1 日時 平成19年7月26日 10:00～12:00

2 場所 ホテルレガロ福岡「ローズルーム」

### 3 会議次第

- (1) 開会
- (2) 知事挨拶及び趣旨説明
- (3) 教育力向上福岡県民会議委員委嘱
- (4) 教育力向上福岡県民会議委員・県庁委員紹介
- (5) 議事
  - 設置要綱・今後のスケジュール（予定）について
  - 会長・副会長選出
  - 福岡県の教育の概況
  - 意見交換

### 4 会議内容等

#### < 麻生知事挨拶・趣旨説明（要旨） >

現在、日本中でいろいろな教育論がなされている。1つは「ゆとり教育」について。これが多くの問題を抱えており、その見直しをするということになっている。

しかし、「ゆとり教育」のどこが悪くて、どう直すべきなのかということについては、非常に中途半端な状態に終わっている。「『ゆとり』という考え方はよかったけれども、方向がまずかった。」、「そもそも『ゆとり』というのが教育の目標たり得たのか。」というようなことである。

一方で、教育力向上のための委員会が政府の方で置かれた（教育再生会議）。しかし、いきなり細部から入って、いろいろなところで議論を広めていくというやり方をとったので、いったい全体として日本の教育は何を目指すのか、どこが問題なのかということがはっきりしないまま、多くのテーマについて議論をしたという状況である。教育の基本的な問題についての認識と、これに対する根本的な対応についての議論があまりにも拡散をしまっている。

教育というのは「不易・流行」といわれるが、「不易」の部分が核であると思っている。そういう点も考え、福岡県として、一番、教育の中心的な問題に対してどんな考え方をとり、どんな方法を用いていくかということを実践にもっておかなければ、その時代、その時代に流されてしまい、気がついてみるとしっかりとした人材教育ができていないということになるのではないかと、という強い危機意識をもっている。

これまで、本県は、1つは青少年アンビシャス運動をやってきた。

もう1つは、11月を「サイエンス・マンス」とし、子どもたちに理科の面白さをなんとしても教えていきたい、理科離れを解決し、子どもたちがもう少し理科の中に入り込む機会を与えていきたい。ということをやってきた。

それから全国の高等学校の生徒を集め、2週間合宿させる「日本の次世代リーダー塾」というのをずっとやってきた。

ただ、今までやってきたのは、どちらかという学校教育の外での運動であり、今回の教育力向上福岡県民会議は、思い切って学校教育そのものを真正面から取り上げて、基本的な考え方を創っていく、ということが必要であると考えた。

現象面でみると、多くの問題となる現象が起こってきている。そういう現象を貫く基本的な問題は何か。

1番目は、学ぶ意欲の低下。これが非常に大きな問題であるととらえている。学力の問題もあるが、学力と平行であるが、それ以上に、根底的な、新しい知識を得たい、学ぼうという好奇心の低下、この問題をどうとらえて、どのような方向でやっていくかということ整理したい。

2番目は、アンビシャス運動でも一番大切な目標にしている「自尊感情」が非常に低いという問題。これは諸外国と比較して明白な日本の特徴と言っていいほどで、子どもたちは、「自分は大した人間じゃない」、「将来も大したことはできない」、さらに、「自分の行く末、社会も大した社会ではないのではないか」というような見方をしている。これでは、何かしっかりしたことをやろうという一番根底的なエネルギーが湧いてこないということである。つまり、自らに自信をもって何かやっという自尊感情が非常に低いということが第二番目の問題。

3番目は、規範意識やモラルといったことである。自分と社会や他人とのかかわり方、その中で自分をどのように位置づけて生きていけばいいのかということについての能力、コミュニケーション能力といわれる部分も含め、規範意識やモラルが低いと言われている。それについて、実態がどうであるのか、どう対処していけばよいのかということである。

4番目は、体力の問題。ずっと体力が落ちていっている。国際比較でも日本の子どもたちは低い。体力の問題も今のようなグローバル社会において非常に重要な問題になってくると考える。

このような問題の重要なことは、親の教育力も低下しているということである。「親学」で親の教育ができるのかと思うが、これも真剣に考えていく必要がある。

また、これと裏表にあるのは、社会全体としての教育力の低下。

それから学校教育、先生の指導力を含めてのシステムの問題。

このような全体的な問題が多くある中で、背景として議論をしていただきたいことの1つに、社会がバーチャルな時代に入ってしまったということがある。テレビ、ゲーム等を盛んに見るようになった。その結果、勉強する時間が減ったという直接的な時間の問題もあるが、何よりもテレビだけで物事がすぐにわかったような気分になってしまう。しかし、よく考えると、知ったつもりでもきちんと論理的に説明ができないというようなことがある。

バーチャルな世界にどんどん入っていく現状の中で「学ぶ意欲」をどのようにかき立てていけばよいのか。すぐ、わかったような気持ちになるのをどう超えていくのかというようなことである。

このようなことを含め、是非、現状をしっかりと洞察して、基本的な考え方をもとに、皆様方の社会の中で活躍されている英知をもとに御提言をいただきたい。

< 委員委嘱 >

机上への配付をもって、委嘱状交付にかえる。

< 県民会議委員・県庁委員紹介 >

分野別、50音順にて県民会議委員を紹介。

麻生知事、県民会議プロジェクトチーム部員を紹介。

< 設置要綱説明 >

【教育力向上福岡県民会議設置要綱の説明】

事務局から、設置の趣旨、組織、任期、プロジェクトチーム等の説明

【今後のスケジュールの説明】

本会議は本日を含め年4回の予定。

専門的に議論が必要なものについては、専門部会を設置する。

広く県民の意見を聴取する地区分科会を開催し、県民のコンセンサスを図る。

専門部会、地区分科会の内容を本会議へ報告し、本年12月には第一次提言を、残された課題は、引き続き審議し、来年の6月頃には第二次提言をまとめる。

< 会長・副会長選出 >

2名の委員の推薦により、会長に九州大学総長の梶山委員、副会長を福岡教育大学名誉教授の横山委員が選出された。

【会長挨拶】

会長ではなく、座長と言うことで務めさせていただきたい。

知事からいろいろな教育の問題、本質的なところの説明をいただいたが、教育であるからいろいろな切り口で議論しなければいけない。

教育を受ける側、する側、それから社会の変化もあるし、段階的にみると、家庭教育から初等中等教育、高等教育、それに社会に入ってからと、いろいろな段階がある。

そういう意味では、福岡県に特徴のある長期的な問題があるのかということ踏まえ、それに対して提言ができるかどうか、教育一般の提言になる可能性が随分あるが、そういうことをうまく切り分けながらやってみたいと思う。

ただ、提言なので、制度ということはあまり問題にせず、本質的な問題で、しかも実効ある提言にしたい。

各委員は、乳幼児教育から初等中等、高等教育、それから産業界の専門の方がおられる。是非、いろんな御意見をいただき、実効ある提言を行いたい。

「5年で何かできる、変化できる」と考えるのではなく、悪くなった時間の倍の時間をかけないとよくなるという考えで行いたい。

そういう見方でいうと、すごく単純だなと思うのは、アメリカの家庭での父親の役目は2つしかないこと。特に、男の子に限っては「火をおこすこと」「地域でスポーツに

参加すること」この2つだけ。

「火をおこすこと」は何か、これはキャンプファイヤー。キャンプで集団でいろんなことをやるという。スポーツも、地域の中で自分の役割を子どもにちゃんと見つけ出させるという。その2つがあれば、子どもに対する親の役割は終わったという。それだけではないと思うが、そういうことでさえも日本は、行われていないんじゃないかという気がする。

そういう簡単なことが日本では行われていない、その積み重ねが今の日本みたいになっていると、私は思っている。

各委員の経験、専門の領域から御提言をいただき、実効ある提言にさせていただきたい。

#### 【副会長挨拶】

私、児童心理学や発達心理学を専門としている。そういった関係から、いろんな子どもたちに関わってきたが、想像以上に深刻な状態にあると思う。

現在、アンビシャス運動、もしくはそのアンビシャスに関わっているが、今回できたこの委員会の中で、梶山会長を補佐し、最後におっしゃった、実効ある確かな提言、これを皆さんのご協力の中でつくることができれば大変うれしいと思う。

#### < 会議の公開・非公開について >

本会議の公開、非公開についてであるが、自由な発言をいただくため、本会議を原則非公開としたいと考えているが、どうか。

#### 【各委員賛成】

それでは自由な御発言をいただくという意味で、会議自体を非公開ということにしたいと思う。なお、会議の内容については、会議終了後、本日、記者会見を行い、議事録については後日公開する。

## < 会議運営方針及び基礎データの説明 >

### 【事務局より】

#### 「学ぶ意欲等について」

全国的にも子供の学力低下が大きな教育課題となっている。

小学校は、教科については算数と理科、観点については思考判断、技能表現処理について、出題側が期待したほどの正答が得られていない。

中学校は、国語以外の教科、全ての観点について、出題側が期待するレベルに達していない。

学校での学習に限らず、物事を単に覚え、理解するだけでなく、覚え、理解したことを基にするような能力が十分に育成されていないと考えている。

「授業がとても楽しい、だいたい楽しい」及び「勉強が生活に役立つと感じる」という割合は、それぞれ中学生になると、小学生に比べ約20ポイント減少し、半分程度となっている。

授業以外の平日の学習時間は、中学生になると、ほとんどしない子供と、2時間以上する子供の、両極端に分かれる傾向が窺える。

小中学校においても習熟度別授業等により、学力不振の子供の底上げを図る取組も増えているが、正答率が高い子どもほど「授業が楽しくない」の割合が減ってはいるものの、小学生で約2割、中学生で約4割の子どもが「授業があまり楽しくない」と答えている。

#### 「子どもの意識について」

いわゆる逸脱行為と言われる様々な行為に関する善悪の判断が、高校生のほうが「悪いとは思わない」割合が高くなっており、規範意識が低くなっているということが窺える。

これがそのまま実際の行為に繋がるものではないと思うが、「悪いことは悪い。」ということをもっと厳格に、あるいは理屈抜きに教え込むべきだという声が、教育委員会にもしばしば寄せられている。

子どもたちが日頃感じていることを11項目に渡り調べた結果では、小学生から中学生になると、全ての項目で否定的な回答が増加している。また、中学生と高校生の間では、バラつきはあるものの、やや増えている傾向にあり、特に、「自分はダメな人間」「自分の力だけではどうしようもない」といった、自尊心の欠如や無力感は、将来への希望や意欲といった気持ちを阻害する要因であると思われる。

日本、スウェーデン、アメリカ、中国の4カ国の中学3年生を比較したものでは、自分自身に対する自信度、いわゆる自尊心は、「やや控えめな態度が美德である」といった国民性も影響していることも考えられるが)いずれの項目を見ても、「自己を肯定する気持ち」が他国より低いことがわかる。

#### 「体力の問題について」

本県の子供の体力、運動能力は、20年ほど前から長期的な低下傾向を示しており、また、全国平均と比較しても、特に中学生までは若干劣る項目が多い。

中学生、高校生の運動部活動の加入状況は、中学校で7年ほど横ばい、高校で増加傾向にあることから、小学生までの子供に対して、体力等向上のための何らかの手立てを取る必要があると考える。

#### 「親の養育態度、家庭での生活状況の問題について」

「しつけに対する自信がない」といった保護者が半数を占めている。若干遠慮がち

に答えたと考えても、憂慮すべき状況である。

親として、「子供のしつけ」等について学習しない、言わば、しつけに無頓着な親、特に父親が増えているという状況がある。

#### 「幼児教育について」

施設ごとの在籍乳幼児の数では、一見、幼稚園の割合が低いと感じるが、幼稚園には3歳以降でないと入園できないため、乳幼児全体から見るとこの比率となる。

小学校就学直前では、約半分強が幼稚園に在籍している。

ほとんどの幼稚園において、地域との連携が図られている。

#### 「生活習慣の問題」及び「メディア・携帯電話の問題について」

テレビ、ゲームについては、長時間、3時間、2時間以上が結構多い状況である。

テレビの長時間視聴、あるいは長時間のゲームの遊びは、夜更かしや睡眠時間の減少、朝食の欠食等の様々な悪影響を生み出す原因となるため、今後、テレビ等のメディアとの活用方法について、保護者の意識改善を図ることが大切であると考える。

最近では、携帯電話を持っている小中学生が多いようであるが、中学生になると、約4割が所持しているという現状である。

携帯電話は、便利さについては理解していても、同時に有害情報にさらされているという、悪影響については十分に認識されていないのではないかと危惧している。

有害サイトへのアクセス状況については、小学生で約1割、中学校2年生で約2割程度が、興味本位で有害サイトにアクセスしているという状況である。

このような形で携帯電話についても、活用方法について再度認識を新たにしなければならないと考える。

#### 【会長】

質問。膨大なデータだが、福岡県の特徴的なものを1・2点あげてほしい。先ほどで一番分かるのは、体力。50m走とボールを投げるのは、全国平均より低いなど分かるが、それ以外にこれから読み取れるものはあるのか。

#### 【事務局】

「学ぶ意欲」、学力が若干低いのではないかととらえている。

#### 【委員から補足説明】

今、学力の関連で、4県（宮城県、岩手県、福岡県、和歌山県）による統一学力調査の結果について言及があった。私は、その調査の実施・分析に直接かかわったのだが、その視点から、いくつかコメントする。まず、「期待正答率」より実際の正答率が低かったことについてはあまり気にしなくてよい。期待正答率は問題作成者の「期待値」にすぎない。福岡県の成績平均値は、他県の対応するものに比べて、かならずしもよくないことが指摘されたが、その差は僅かで、統計的には有意でないレベルのものである。実際、4県を県平均で比べるとほとんど差はない。

県平均では差がないが、自治体、教育センター、学区、学校、クラスと、だんだん小さな単位になるにしたがって、分散、つまり、単位間の差が大きくなる。

これは仮説だが、学力調査の結果の差は、最終的には教師に行き着くのではないか。アメリカやイギリスでは、親の所得でだいたい子どもの成績が決まっているが、日本の場合には、塾に行くか、いかないかを除くと、結構、経済格差や人口の多さ・少な

さは、それほど決定的な要因になっていない可能性がある。

「福岡県の特徴」という視点だけでなく、より絞り込んだ、より小さな単位の結果で特徴を抽出する必要がある。

#### < 意見交換 (要旨) >

学力向上という点が最も重要であり、その最大のポイントは読解力。読解力が根本的に基本。日本の読解力がどんどん下がっているというのが非常に重要で憂いているところである。

そのような時に、メディアを活用すると学力が向上するということを具体的にデータがある。そういったことを多くの先生方に知ってほしい。

教員の ICT( Information and Communication Technology 情報通信技術 )活用指導力、指導というものが必要であり、文科省の全国調査結果が来週早々には公表される。

ICTの指導に関する目標が明確になったので、指導力向上を検討し、教員研修をいかに行き、その結果を学力向上につなげるということが必要。

新しい時代になってのコミュニケーション能力の低下も問題。産業界の調査によると、「コミュニケーション能力は重要だ」というパーセントはどんどん上がっている(昨年度 81.7%)。

逆に言えば、それだけコミュニケーション能力は下がってきている、あるいは時代とともにコミュニケーション能力そのものが変わってきていると言える。

そういった時に、子どもたちが小さいときからテレビの中で育ち、成長してコミュニケーション能力を下げている。テレビは一方通行、受け手が理解できないのに、どんどん情報が送られてくる。したがって、情報を出しても相手が反応しないという世界がつくられているということが問題であると考える。

インターネットは双方向なので、モラル的な問題もあるが、情報モラルをきっちりしていけば、多くの子どもたちは、コミュニケーション能力を高めることができると考える。

いずれにしても、先生の信頼関係が重要であると思う。保護者が先生を信頼するという関係を構築するということが大切である。

採用関係をずっと(10年以上)やってきたが、学力低下は長期的にみて非常に落ちていることは明らかである。

国際的に見てどういう面が落ちているかと、一つは判断力。いろんなことに対する判断力が非常に弱い。二つめは交渉力。これは極めて弱い。今、政治家を含めて、自分の持ちカードを簡単に相手に知らせてしまう。

三つ目に、国際的な、世界的な枠組みの基本がほとんど無いというか、極めて弱い。国際的な関係がどうなっていて、国と国の関係がどうなっているのか、国家という枠組みがどういうことをもたらしているかという知識が、国際的な比較でみて、圧倒的に弱い。従って、結果として、そういうことをみるような教育というのが大事ではないかと思う。

この会議は「福岡県がどうするか」なおかつ具体的な提言、これが大きな目的であ

るのはもちろんだが、併せて、日本の今の教育が、どこがどういうふうであるのかと  
言うことについて、是非議論をしてほしいと思っている。これは、麻生知事が全国知  
事会の会長をしているということもあるが、地方の時代というのは地方からアイデア  
を出すという時代であると思う。文部科学省がどう考えているか、とか、中心の議論  
はどうかということに気にするだけでは本当の地方の時代ではない。

問題は沢山あり、深刻で、どう対処したらいいか途方に暮れるが、それでも、やり  
方によれば、子どもたちの力を伸ばす試みもあるし、成果を上げている。たとえば、  
麻生知事が提唱されて、過去数年、福岡県で主催している、全国の高校生を対象にし  
た「リーダー塾」の卒業生は、生き生きと自分の道を見つけ、活躍している人が非常  
に多いという気がする。その中の一人は、高校時代に、家族で会社を起業した。散歩  
のときの犬のふんをとる紙のスコップを工夫して、生産・販売している。現在は大学  
二年生で、その大学のキャンパス内にある「アントレプレナーの支援と交流」を図る  
オフィスビルに入居し、他のベンチャ・といっしょに元気に活躍している。

最近のデータで、「朝ご飯を食べない子どもは成績が悪い」「テレビを見すぎる子  
どもは成績が悪い」ということが示唆されている。確かに、それから学ぶこともある  
が、私は、最近、学力などについて、個人に帰着させるという風潮が強過ぎると思  
う。「成績が悪くなるからテレビをみるな」と叱るのではなく、より本質的な問題は、  
子どもが安心して、楽しく、他の子どもと遊べ、大人も子どもに関心をもつ、など、  
いわゆるソーシャルキャピタルが高い地域をみなで作って行くということではない  
かと思う。つまり、コミュニティの問題かもしれないということだ。そのような研究  
がこの10年ぐらい進んでいる。

個別にデータをとることは大事だが、「この子はいけない」とか「これだから」と  
いうことよりも、もう少し全体を見なければいけないという視点もいるのではない  
か。

この会議では「茶飲み話」みたいなものはやめよう。「お説教」よりも「方法論」  
というか、方法を提示したい。

例えば、学校評価を学校の先生たちが自分たちで設問を考えて、質問用紙が簡単に  
作れ、集計・転記・分析が自動的に行われるような支援ツールを、われわれのチーム  
が構築し、無料で提供している。このツールは、これまで、全国で10万人以上の児  
童・生徒・保護者・地域の人たちが使ってくれている。

諸外国では、「ダルトン（はっきりとしたルールに基づいた自主学习）」とか「モ  
ンテッソーリ（異年齢の混合学級で具体物を用いた教材を使用）」とか、いろいろ方  
法論がある。

日本の場合は、どうしても「あの先生はいい先生」とか、非常に属人的になりがち。  
重要なのは、方法論を作って、人に伝えられるようにすること。そのようなツールを  
提示していくことが大事だ。「早く起きろ」とか「朝ご飯食べろ」とか「携帯電話を  
使うな」だけを一方的に言っても効果はないだろう。

このようなデータを見ると、平均値の話はどう使うかということと、それと同時に  
リーダー的な存在の人を何人つくるかということとを区別して考えないといけない。平  
均を上げるということも重要だが、リーダー的な人をたくさんつくるということも

っと重要だと気もする。そういう議論を次回から進めていけたらと思う。

先ほどのデータにもあるように、保護者としては、今、教育やしつけについてわからないような状態になってきている、というのが実情だと思っている。

特に、ゆとり教育を始め、いろいろな改革が進められているが、保護者がそれについていけないというのが現状だと思う。

PTAとしては、学校支援という考えから、家庭教育をしっかりすることが学校支援につながるということで、県として「“新”家庭教育宣言」(親子の約束を取り交わしながら、1つ1つ当たり前のことをやってみませんかという呼びかけなど)を実施している。

早寝早起き朝ご飯の運動も、去年は県民運動として県下一斉に実施し、490校が参加をした。その中で、保護者が当たり前のことがなかなかできないと、気付くきっかけになったのではないかなと思う。

併せて、16年から「“新”家庭教育宣言」というのを提案してきたが、その中にも、メディアの問題、携帯電話の取扱いについても、家庭でしっかり話し合いができるような家庭もでてきた、ということもある。

しかし、PTA活動に参加してほしい人がなかなか来ないという問題も裏にはあり、地域、学校とつながり、連携を深くしながら、「みんなで取り組みましょう」という運動を、地道な運動として取り組んでいかなければならないと思う。

PTAとしては、子どもの問題、いじめの問題も含めて、今、学校内のいろいろな不祥事も出てくるといった中で、学校と保護者が信頼関係を結べるような状況がないと、子どもにしっかりとした教育が伝わっていかないのではないかと考えている。

特に、ここ30年、体力の問題もでてきているが、子どもたちが「勉強すればいいんだ」、「学びたい」という意欲をもてるような社会が必要になってくると思う。

学ぶ意欲をもち、学習習慣がきちんと身に付いた生徒を何としても育てたい。そのために、学ぶことの意義を理解し、分かることの喜びを実感させるような、学習指導に努めることが、まず第一であり、学校と家庭が協力して、望ましい学習習慣を身に付けさせるという取り組みもしなければならぬと思っている。

大規模校では、すべての生徒が一様に学習意欲を喚起するような授業への取り組みは、なかなか厳しいものがある。やはり、理解が早い子とそうでない子の開きが結構大きく、このことが学習集団の中に、学習意欲の格差を生じている。

また、生徒個々の学習習慣とも大きく関わっている。学習習慣がある程度身に付いている生徒は、自分でまず取り組もうとするし、途中でわからなくなったら教師に質問する。反対にそうでない生徒は、すべてが受け身になり、自分の力で解決しようとせず、容易に答えを得ようとする。苦労せずして課題を解決したいと思っている生徒が若干増えてきているように思う。

以上のことから、学ぶ前提としての学習習慣の育成や普段の授業の中で生徒が考える場面、自分で考えたことを自分で表現する場、教師が意図的にこういった場面を設定することが必要であり、継続的に取り組ませることで、子ども一人一人に自ら学ぶ

力を身に付くような、抜本的な授業改善が必要だと考える。

地域では、全校的に教師の授業力量を上げる意味で、授業改善に取り組んでいる。今後は、地区内の教員による優れた授業実践や指導スキル等を共有して、啓発・普及しながら、全体的な授業レベルを上げていく方策がまず必要ではないかと思う。

心豊かな生徒の育成に学校と地域が連携して、本腰を入れて取り組む必要があると思っている。

学校でも週1回、道徳の授業を中心として、学校のすべての教育活動を通して、道徳的心情、道徳的实践力を高める指導を行っているが、その効果はどのようなかと聞かれると難しい面もある。

現在、以下の点から規範意識の低下というのをとらえている。

- ・ しつけ等の家庭教育における基本的な生活習慣の不十分さと、善悪の判断の無さが非常に顕著にでてきている。
- ・ 子どもたちを取り巻く環境、状況が非常に変わってきている。特に、有害情報などに対応できていないことが原因かと思う。
- ・ 子どもたちの生活体験、社会体験が非常に乏しい。人や社会に貢献する喜びを実感することがあまり無い。これが規範意識の低下につながっているのではないか。
- ・ 学校における子どもたちの内面に響く指導の不十分さ、これは我々教師の課題でもある。

高等学校の現状としては、教師は、朝の7時過ぎに学校に来ている。(午後の)7時半を過ぎて学校に残っている教師が、だいたい3分の1くらい。

朝は講習を全員が、進学校だけではなくて、専門高校でも検定に合格するための課外はやっている。もちろん、授業、面談、家庭訪問、あるいは部活動の指導や引率等、それぞれの学校に応じた課題を解決するために、がんばっているのが高等学校の現状。

学ぶ意欲という点では、進学校においては、確かに意欲の面では、以前と違って、言われたことしかやらない生徒が少しずつ増えてきている感じがする。

高等学校では学力だけをつけるのではなくて、自分の将来設計をさせた上で、どういう人生を送りたいのかということを考えさせながら、勉強させていく。

進学校は、日本のリーダーとなる生徒を育成するということで、文科省のスーパー・サイエンス・ハイスクールと福岡県教育委員会の福岡スーパーハイスクール等で、リーダーとなるための育成を図っている。

専門高校では、キャリア教育で、自分の将来プランを考えた上で勉強させていく。今の専門高校は、就職だけではない。大学のAO入試や推薦入試にチャレンジさせていって、進学をさせていく。それも予備校等に頼るのではなく、自前でやっていく。学校で手塩にかけていくという姿勢が専門高校にも十分浸透してきている。

一番難しいのは、進学・就職が半々の普通科高校だが、家庭環境の差、家庭の生活習慣の差、学力の差が、そのまま学習意欲につながっている。非常に指導が難しいというのが現状。しかし、生徒がいろんな行事を体験する中で、失敗をしながら成功を重ねていく経験をさせる取り組みもしている。

学校の権威、先生の権威が失われている時代ではないかと思う。学校のあら探しをするという風潮があって、先生方が自信を失いかけているということが現状。

メディア等の力が大きい。新聞などで問題になった「モンスターペアレント」が、最近は少し減ってきていると聞く。是非、メディアでもそういった支援をお願いしたい。子どもをだめにする要因は、親が先生の悪口を言うのが一番の要因なので、親や社会が是非学校を守るという観点から支援をお願いしたい。

知育にしても、体育にしても、基本的には、全てが平等で競争心が無くなってきているという感じがする。いろいろな形で競争させて、自分でどれだけのことができるんだということを(体験)させる必要があるのではないか。その中で、「やる気」「集中力」を養っていく。また、考える力、心の力、学ぶ力を育てていくのは、教育の基本じゃないかなと思っている。

しかし、どうしてもできない人がいるから、その人にどう手助けをして、具体的にできるようにしてやるのが大事。

幼稚園のことだが、毎日の積み重ねで、読み、書き、計算と、走り、跳ぶということをやっている。子どもたちには「できると面白い」「面白いと練習する」「練習すると上手になる」「上手になると楽しい」そして、次の段階に行こうというような形でやっている。

昨年、年長が50m走を走ったら、8秒28で走っている。8秒台が4人もいる。毎日走っているからだと思う。走り方もスタートラインが6本くらいあって、自分で選んで走る。速い子は後ろに行って後ろから走る。遅い子は、前の方にいて走って「自分でも一番になれる」と思う。後ろから走っている子は「絶対、あの子を抜いてやる」という気持ちで、競争する心を満たしながら走っている。しかし、親として心配なことは、「けがをするんじゃないかな」ということ。それは、チャレンジ精神を全て押さえてしまうので、「させない」という気持ちが結構多いのではないかなと思う。

残念なことは、参観に来て、自分の子どもの姿を見ていない。基本的にはおしゃべりばかりで、何のために参観に来ているのかわからない状態。そういう状態なので、大事な話をし、「この前説明したでしょう。」と言っても、「あんなに人の多いところで言われてもわかりません」と、堂々と返ってくる。

やはり子どもたちにも「聞く力」を養う必要がある。私は毎日、子どもたちに「人の話は目と耳で聞きなさい」という言葉を使いながら話をしている。

先生たちの質が低下したということも聞く。確かに事実かもしれないが、「子どもたちが悪くなったから、先生たちがどうこう」という問題ではない。

家庭や大人の責任感、子どもたちではなくて、周りの大人たちをきちんと教育する必要があるのではないかと思う。子どもたちが大人の犠牲になっている。

月曜日は、全然保育にならない。バスで送り迎えしているが、朝から眠っている。親がしっかり子どもを教育する姿勢になってほしい。

これは、ちょっと無理なことかもしれないが、「安心してお仕事をしてください」という社会よりも「安心して子育てしてください」という社会を作れないのかなという気がしている。ある会合に行くとある方から「子どもが病気だけど、預かってくれるところがない」と言われた。私はすぐ反論した、「私は66歳ですが、もし病気になって、子どもたち、孫たちが来てくれなければ、これほど寂しいものはない。だから、子どもさんが病気になったら、お父さんでも、お母さんでもいい、帰って看病してあげてください。」と、そして企業の協力も必要だと思うので、そういうこともお願いしたい。

私は学生に接するときの一つしかしない。それは、私は朝4時に学校にいくと、かなりの学生が卒業研究等で徹夜で学校にきている。その時に、学生に廊下で会ったときに「あまり、研究しないで家に帰って寝なさい。体をこわすよ。」という、それから2倍働く。学生は「認められた」という気持ちになる。そういうことはすごく重要。

学生は教師の背中を見て育っているし、子どもは親の背中を見て育っている。そういう単純なところが欠けており、積みり積もって、いろいろな問題として表出しているのではないか。解決するためにやることは大変だが、どうするかということは非常に簡単なことではないだろうか。

学力については、反対の人もあるかもしれないが、日本は現在、「暗記」ということに対して、非常に安易になっている。学力は、理屈さえきちんとしていれば暗記させないとだめ。「暗記」はだめだという人もいるが、確かに、円周率を何百桁も覚えるようなことは意味がない。しかし、理屈をきちんとさせて暗記させることは非常に重要であると思う。それが日本は今、非常に欠けている。それが学力の低下は、いろいろな理由があると思うが、それもつながっているのではないかと思う。

神奈川県藤沢市で40年間、中学3年生を対象に学習意欲に関する調査を行っている。大きな調査の一つではあるが、これを見ると、今、学力や意欲が下がっているのではなくて、40年間下がってきていることがわかる。

しかも、よく言われる「学習指導要領が変わったから」ということでもないようである。単純に、継続して低下している。この結果を過大評価してはいけないが、子どもたちの心の状態や学習意欲といったものが、この40年間で残念な方向に変化してきている。その原因はいったい何なのか、この背景に何があるのか、科学的な分析が必要である。

その分析の中で、いくつかの鍵となる要因が出てくると思う。その鍵を、これからの戦術を立てるときに、ポイントとなるのではないか。

「この会議を『お茶飲み会議』にするのではなくて、きちっとした提言をつくっていくとが大切」という意見には私も賛成である。そうするためには、理由を明確にして、具体的な戦略を立てて、実行に移していくことが必要である。

一般論やマスコミの論調は、「学習指導要領が変わったから」「ゆとりの時間ができたから」「総合的な学習の時間があるから」などと言われるが、もしそうであれば、もっと深刻な調査結果になっているはずである。(このデータでは)学習指導要領改

訂時には、逆にちょっと上向きになっている。

学習意欲だけではなく、遊びがほとんどできない状態にある。「遊びなさい」と言われても遊べない。大学生がコンパができない状態に入ってきている。人間関係もうまく築けない。こういったものが深く関わってきていると思う。

子どもたちの生活の在り方が、いくつかの要因の中で、自立できない状態になってきている。そして、学習意欲が低下し、結果として、テストとしての学力も低下しているのではないか。そういった部分を、科学的に可能な限り分析して、進めていくことが大事である。

幼児の生活は守られているのか。大人の都合で子どもの生活が守られていないのではないか。深夜に24時間営業の店にいくと、幼児だと思われる子どもが親子で来ている。レストランにも深夜に子どもがいる。大人の都合で子どもの生活が変わってきている。

社会の問題が、子どもの生活の範囲を狭めているのではないか。社会の治安の悪さが子どもの遊びの機会を奪っている。自分たちが子どもの頃は、道路が遊び場だったが、現在、道路は危険な場所になり、遊ぶことは難しくなった。

園や小学校がその状況をカバーできるのかというと、学校も閉鎖的になっている。様々な問題や事件等で学校を閉鎖的にせざるを得ないようになっている。

子どものテレビの視聴時間が長いのは、30年前から文科省が子どもの生活時間の変化として言われてきた。しかし、地域ぐるみで取り組みとよい方向へと向かうという報告もある。地域や園、学校でテレビをコントロールしようとする運動として展開すれば、生活時間を改善することが可能なのではないか。

幼稚園の現状は、確かにいろいろな保護者を抱えて大変な面もあるが、逆に、根気よく行えば、保護者の変容もあるのではないか。今、保護者が子育ての情報を得るものは、インターネットが多い。それを活用して、よい情報を提供できないか。

体力の問題について、いろんな運動をすれば調整力が、長く運動すれば持久力が、素速い運動をすれば敏捷性が育つのが体力の特性である。子どもたちの生活の適応の状態が体力であるとなられば、何とかして運動の機会を増やせないかと思う。

現在の小学校は、福岡県下で100人規模の学校が100校近くある。そうなる切磋琢磨して運動する機会が少ない。近くの学校同士の合同の運動会が開催できないものかと思う。

学力向上も、専科教員が考えられないか。課題のある理科や体育の専科教員など、学校規模も考慮しなければならないが、具体的に行動に移すときではないか。

私学は縦型の組織ではないので、いろいろな情報を交流したり、合同で指針を作成したりしている。しかし、現在は、私学の独自性、あるいは自由さを奪われるような危機がある。国の圧力に負けずに、福岡県としてのある程度幅のある教育を行っていくことは非常に大切なことである。

企業で商品の開発を行っていた経験から、一番大切なのは imagination と creativity、想像性と創造性だと思っている。私個人も精神的に常に若くいるためには創造力だと思っている。

また、動物は環境に順応して生きている。人間も基本的には、不易の部分は、そんなに変化していないと思う。つまり、子どもたちに与えるものが間違っているのではないかと思う。あるいは、大人の側はあまりにも与えすぎている。子どもがいろいろ工夫して創造する前に与えてしまっている。それが意欲の低下につながっているのではないか。

学校では、昨年からは英語で、まずコミュニケーションを指導した後に、文法の指導を行っている。大学受験の関係で、実施時期を悩んだが、昨年からは行った。2月には全員参加の英語劇を行った。英語力も上がったが、他の教科の学習意欲も上がった。部活動など、他の面にもよい傾向が現れた。

私学は、保護者の評価がシビアであるが、背水の陣でやっている。

外国語や国語など、学ぶ過程をそのまま学校教育にもってこないといけない。子どもが学ぶときに、しゃべることを始めにする。文法を先にするわけがない。それを反対にやっているのだから、日本の英語がだめになっている。

福岡県では、地域にアンビシャス運動が立ち上がっており、家庭でも我が子をいい子に育てようと、学校でもがんばっている。そのつなぎ役というか、子どもを認めるということがキーワードだと考えている。

実は、私は子育てが下手で、娘は私のことを「漬け物石」と言った。「いつも上に乗って、『何点とれ。どこの学校へ行け』と言い続けた。本当に苦しかった。」と言った。

娘が公立高校に落ちたときに、烈火の如く娘を叱ったときに娘がいなくなった。夕方遅くなって、中学校から「学校におりますから。」と電話があった。帰宅した娘に「何で、中学校に行ったのか。あそこは合格者が報告に行くところでしょう。あなたは、謹慎しとかないといけないのに。」と言った。

しかし、娘が「落ちました。」と報告に行ったときに、中学校の先生が、「あ、落ちたの。こっちにいらっしやい。私も私立の高校にいったのよ。あなたは、私の後輩になれたんだよ。私の横に座って本を読みなさい。」と言って、午後からずっと夕方まで本を読ませてくれた。その先生が、娘を認めて、横に座らせてくださった。この経験が、私母親にとってもすごく心温まる思いであり、娘にとっても心温まる生きる力につながった。

つまり、学校の先生方の努力と、家庭、そして、地域とつながる力をどう築き上げていくか、認め合っていくか、私たちがそこそこでいくつ心温まる思いをこれからいくつ重ねていくかということが、すごく大きな問題ではないかなと思う。

私の下手な子育てを地域が支えてくださり、学校が支えてくださって、子どもたちが何とかバランスをもって生きてきた。

文科省調査では「家庭で一番大切なことは何ですか」という問いに対して、1983年では「家族みんなが仲良くすること」が第1位、2003年の第1位は、「お金やものがたくさんあること」になってしまっている。それは、母親や父親、家庭というフィルターがそういう子どもたちをつくってしまったのではないかと考えている。

これから、いかに育ち合うか、認め合うかということが大切になる。先日、ボランティアに参加されている方が、小さなお子さんを連れのお母さんにマンションのエレベーターで乗り合わせて、「私は子育てが終わっているから、何かあったら言ってね。何でもしてあげるよ」と言ったら、「いいです。」と言われたそうである。それでも言い続けるしかないのだろうか。「助けてください。力をください。」と言える輪をつくっていかなくてはならないと思っている。

データをみると、暗澹たる思いがした。学校を預かっている者として、これまで何をしてきたんだろうと考えざるを得なかった。しかし、よく考えてみると、教育は学校だけで成り立つものではなく、学校、家庭、社会教育など総合的な対策が必要ではないかと考えている。

実効ある提言をしていくためには、教師の多忙感をさらに増すような提言は実行につながるのかということを中心に心配している。そこを考えながら、実効ある提言ができたらいいと思う。

小学校で困っているのは、保護者の学校へのかかわり方である。授業参観に来て、懇談会には残らない。半数以上は授業は見るが、懇談に残るのは三分の一以下である。そこは、非常に大切なことであるととらえているが、それが実態である。その実態を解決していくために、もちろん、学校も努力していくべき事が多々あるが、産業界も親が学校のPTA活動に参加できるような支援をお願いしたい。せめて、「学習参観と懇談会は行きなさい。」とか職免扱いにできるかどうかかわからないが、そういった取り組みをしていただければ、かなり変わってくると思う。

学校の現状は、朝早くから夜遅くまで、定時退校は全くできていない。朝は、まず出席確認をして、連絡のない家庭に連絡して、連絡できない家庭には訪問する。従って、多忙感を伴う提言は実行しにくい。

データから、しつけについて、講演会に行くよりも学校に来て、子どもの姿をみて、教師と保護者と話し合うことが基本であると思う。保護者が安心して、授業参観や懇談会に参加できる仕組みをつくれないうと思う。

実効のあるということと実行できることは違うので、確認したい。

子どもの日常生活における体験活動において、過剰体験と欠損体験がバランスを欠いたまま一人の子どもに同時存在しており、それが容易に修正されるような見通しもない。修正するようなプログラムと実行するシステムが確立していない。

旧産炭地の小さな町で、20年近く、10人の小学生を6泊7日、自炊をさせながら学校に行かせるというプログラムを年間20回行ってきた。

目につく子どもたちの最大の特徴は、「働く、生産する、汚れることを厭わずにはたらく」ということをほとんど教えられていない。皆無に近い。

また、対極にある、物心ついてきたときから山ほど体験してきたのは、「使う、消費する」という体験、しかも「AよりもB、BよりもC、選んで使う」ということである。そういった育てられかたをした子どもたちが、他人の痛みや苦しみをわかるように、なるはずはないだろうと思う。今日の問題の状況は、行き着くべくして行き着いたと言える。

自炊しながら、共同生活して、学校に行くという極めて単純素朴な体験を1週間やると、その子の生活の中の問題点がくっきりと見えてくる。

困難に打ち勝って疲れず、どころか、困難に出会う前から疲れる

子どもはやったことのないことはできない、教えられてないことは分からないのだから、大人が一生懸命努力してやらせないといけない。

団塊の世代の男性をどうやって地域参加をさせるか、その時に子どもの体験活動に参加を促すことが大切。

保育園で子どもをみると、大変個性がある子もいる。そういう子どもたちが、なぜ大きくなっていろいろな事件を起こすのか、どうすればよいのかと思う。

事件を起こす子どもが、何の問題もなかった子どももいる。何も問題もなく成長することが本当によいのだろうかと思うときがある。時々、ふざけたり、ケンカしたりしながら成長していく、いたずらをする子の方がよい子ではないかと思うときがある。我々、大人がそういうことをできないようにしている。地域がそういうことをできないようにしている。

学校をみても、ぼんやりしていて気力がない子が増えているという話を聞く、子どもの自律性が遅れているのではないだろうか。いじめに関しても、弱い者に対する思いやり、自己主張ができない、など自発性の発達に原因があり、大人の支援が大事ではないかと考えている。意欲、やる気にもつながると思う。

<まとめ>

【会長】

教育の難しさは、教育の現場に結びつく問題点、家庭、両親まで戻らないといけないということである。問題点は簡単だと思う。解決策は大変だが。それを掘り起こした会議を進めて行ければと思う。今日の御意見は、今後、何度も言ってほしい。何度もいうことで、共通理解が図れると思う。

【委員から】

あえていうが、「学校は悪くない、家庭が協力的でない」とか「家庭の問題ではなく、教員がしっかりしてない」など、「自分は悪くなく、悪いのは他人だ」というような考え方は、この会議ではやめたい。また、「学校はこれ以上の改革をする余裕がない」というような、はじめから、変化することに目をつぶるような姿勢はとらないで議論をしていきたい。

議事録の表現の仕方はどうなるのか。公表の時期はどうなるかを事前に知りたい。

【会長】

発言を控えられると困るので、公表方法については事務局と相談する。

<閉会>

次回の会議

8月29日(水)(午後2時)

ホテルサンヒルズ博多：福岡市博多区吉塚本町

【会長】

どういうことを議論するか、ある程度焦点を絞ることが必要。

2回目以降のフレームワークを最後まで知らせてほしい。

2回目は詳しく、3回目以降はラフでいい。どこに船をつけるか考えながら議論をしたい。

教育の問題だから、みんな様々な意見をもっている。切り口をきちんとしながら、情報共有しながら、きちんとした提言をしたい。